

大窪地区



【地区の自然環境概要】

大窪地区は、森、里、川及び街の要素を持つ地区です。

西部は主にスギ・ヒノキの人工林やクヌギ・コナラ等の二次林が広がる緑豊かな地域です。この地域は、森林環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部はミカン畑などの果樹園が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

東部は住宅地が多い一方、「松永記念館（松永安左エ門別邸）」等の明治から昭和の初期にかけて愛された別邸文化を感じることでできる街並みも残り、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場にもなっています。

また、南側に位置する早川地区との間には早川が流れ、河川や河川敷などの水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

山地森林から丘陵地の環境が主に広がり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。特に、常緑広葉樹林は多様な動植物が集まる貴重な場であり、大切に守っていききたい環境です。

- 風祭から入生田にかけては、人工林と二次林を主としながら一部にタブノキなどの常緑広葉樹林が分布しています。ミツバアケビやヤブツバキ、アオキ等の植物、ムササビやニホンジカ等の哺乳類、サンコウチョウ（絶滅危惧種）やアオバト等の鳥類、ニホンマムシ等の爬虫類、ノゴリクワガタやクチキコオロギ等の昆虫類などが見られ、樹林を特徴づける種が生育・生息しています。¹また、風祭周辺はシダ類の種類が豊富であり、コウザキシダが県内で唯一生育している場所でもあります。²
- 「長興山」は、小田原市内で見られる巨樹・巨木の中でも微生物の生息の場としての多様性が高く、大木を利用するフクロウの古いねぐらも確認されています。³
- 入生田周辺は菌類の新種記録が多く、基準標本産地（分類群の基準となる標本の産地）として象徴的な場所となっています。⁴

¹ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

³ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁴ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

- 水之尾では近年の地球温暖化により分布が拡大した温暖性のシダが生育しており、⁵動植物の生育・生息環境にも変化が表れていることがわかります。
- 河川周辺では、フサザクラやタニギキョウ等の植物、キセキレイ等の鳥類、ヤマアカガエル等の両生類、ミルシヤンマやゲンジボタル等の昆虫類などが見られ、水辺環境を特徴づける種が生育・生息しています。魚類では、早川河口部で、ウグイやゴクラクハゼ等の河川中下流域や河口部でよく見られる種が生息しています。早川中流域では、流れの速い溪流環境でよく見られるボウズハゼやルリヨシノボリが生息しています。⁶

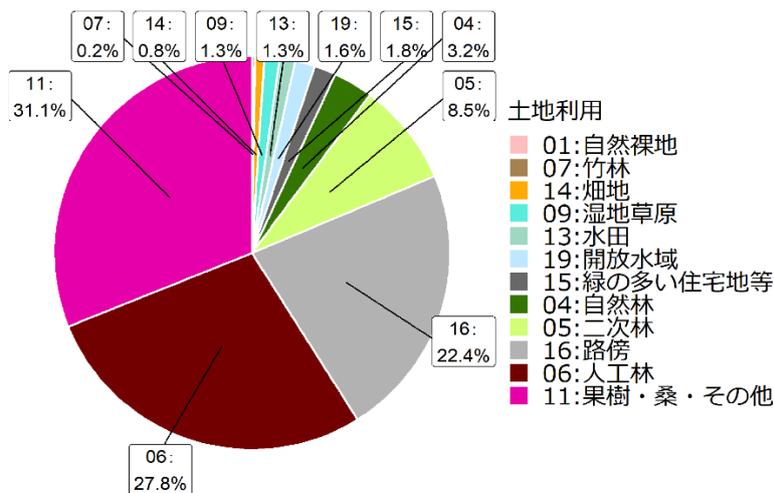


ニホンジカ

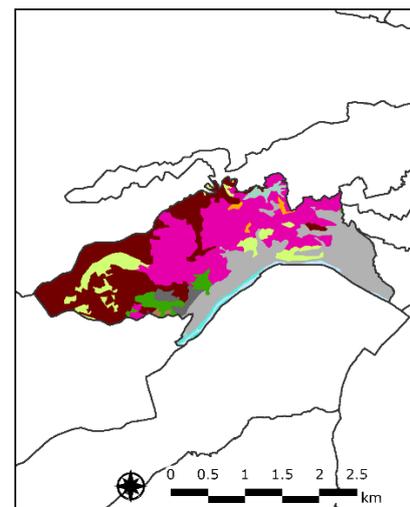


ヤマアカガエル

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、西部は人工林及び二次林が広がり、一部で自然林が見られます。このような森林環境が約4割を占めています。中央部は果樹園や畑地、水田が混在し、里地里山環境が約3割を占めています。南部には路傍が広がっています。⁷



大窪地区の土地利用割合



大窪地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給や生活環境の調整など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：早川の「風祭橋」周辺はアユ等の釣り場となっており、レクリエーションの場として活用されています。

⁵ 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

⁶ 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

⁷ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

- **自然体験・観察の場**：風祭駅から塔ノ峰を経由し「明星ヶ岳」へ向かう道は登山ルートとなっており、自然を楽しむことのできるレクリエーションの場となっています。また、「旧塔の峰青少年の家」周辺は、ヤマボウシやホウなどの温帯林の樹木や、ヤマトリカブトやリンドウなどの草本類、キアゲハやカミキリムシなどの山地の昆虫類などの自然観察にも適しています。⁸
- **自然観賞の場**：板橋には見学可能な以下の3つの邸園の他、明治から大正・昭和にかけ、政治家や経済界の著名人などが居を構えており、その遺構は現在でも落ち着いた佇まいを残しています。

邸園概要

名称	概況
松永記念館	松永記念館は、戦前・戦後と通じて「電力王」と呼ばれた実業家であり、数寄茶人としても高名であった松永安左エ門（耳庵）が、昭和21年に小田原へ居住してから収集した古美術品を一般公開するために、昭和34年に財団法人を創立して自宅の敷地内に建設した施設です。庭園は平成19年2月「日本の歴史公園100選」に選ばれ、四季を通じ様々な花を観賞できます。
皆春荘	皆春荘は、第23代内閣総理大臣の清浦奎吾によって明治40年に土地が購入され、別邸として建築されたものです。その後、大正3年に南に隣接する古稀庵と総称される山縣有朋の別邸の別庵として編入されました。現在の皆春荘の庭は、山縣有朋が自ら作庭を指揮したと伝えられています。南庭に面した各部屋からは箱根山を借景し庭を楽しむことができ、かつては相模湾も望むことができました。
古稀庵	この建物は、明治の元勲山縣有朋（首相、枢密院議長、陸軍元帥）が、明治40年(1907)、70歳のときに構えた別荘です。相模湾と箱根山を借景に築造された「古稀庵」は、山縣有朋の所有であった目白椿山荘・京都無隣庵とともに、近代日本庭園の傑作といわれています。

※出典：小田原市 HP 図書館・博物館・文化施設 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/>
 小田原市 HP 歴史的建造物 http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/culture/historical_structure/
 小田原市 HP 観光スポット <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/spot/> をもとに作成

- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「長興山紹太寺」には、樹齢約 340 年のしだれ桜や自然林の樹叢など、貴重な自然が残されており、スダジイやタブノキ等の大木、ハナミョウガやカギカズラ、サワガニやアカガエル等の暖帯の自然林の観察にも適しています。⁹また、入生田の「山神神社」は、昔この地区に多かった木挽き・杣を職業とする人が、山の神を信仰し祀ったのが始まりだといわれており¹⁰、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。
- **文学ゆかりの地・景観スポット**：大正7年（1918年）から15年（1926年）までの8年余りを小田原で過ごした北原白秋の代表作である童謡「からたちの花」は、水之尾への小径を散策したことが契機で創作されたと言われています。小田原市では、当時の地図などから推察される水之尾道の一部を「からたちの花の小径」と名づけ整備しました。¹¹「からたちの花の小径」を登ると、広大なミカン畑などの眺望を楽しむことができます。

～食のつながり～

- **果樹**：中央部はミカン畑などの果樹園が広がり、食を供給しています。
- **特用林産物**：乾シイタケや生シイタケなどの特用林産物が生産されています。¹²

⁸ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成9年（1997年））

⁹ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所、平成9年（1997年））

¹⁰ 小田原の祭り（小田原祭禮研究会、平成16年（2004年））

¹¹ 出典：小田原市 HP 白秋の散歩道 http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/life_edu/songs/walk/

¹² 出典：神奈川県西地域県西総合センター森林保全課資料

～生活環境とのつながり～

- **大気調整**：植物には光合成を行う際に二酸化炭素（CO₂）と併せて大気汚染物質を吸収する機能があります。工場等から発生する汚染物質が大気中で変化した二酸化窒素（NO₂）及び二酸化硫黄（SO₂）の吸収量を評価¹³すると、市内でそれぞれ3位、2位と上位となります。
- **気候調整**：水の蒸発による潜熱効果は周囲の気温を低下させる機能があります。水の蒸発散量を評価¹⁴すると市内で1位となります。
- 上記の評価結果は、地区の大部分を占める森林により得られている効果であると考えられ、地区内だけでなく周辺地域の気候等の生活環境もよくしています。

【地区で見られる特徴的な自然】

天然記念物や巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「長興山」等に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹⁵で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
長興山	スダジイ	20	510	平成12年（2000年）
	イヌマキ	20	420	平成12年（2000年）
	シダレザクラ	13	380	平成12年（2000年）
入生田	カゴノキ	16	370	平成12年（2000年）

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年（2001年））

- **天然記念物**：「長興山」等の次表の樹木は、天然記念物に指定されています。

天然記念物概要

名称	指定	指定年月日	所在地	概説
長興山の枝垂桜	市	昭和32年（1957年） 3月30日	入生田	このサクラは、稲葉氏が紹太寺を建立した頃、その境内に植えられたもので推定樹齢329年以上。3月下旬から4月上旬にかけて、濃い緑の樹叢を背景に開花する姿は非常に美しい。
長興山鉄牛和尚寿塔 付近の樹叢	市	昭和49年（1974年） 3月30日	入生田	寿塔付近の樹叢を構成している代表的な樹木は、かつてこの地域一帯を覆っていたと思われるスダジイとイヌマキで、共に19本余りを数えることができる優占種。このほか、クスノキ・ヤブニッケイ・シラカシ等の照葉樹が混生している。自然林が消失しつつある現在、数少ない残存自然林として貴重な存在。
入生田のカゴノキ	市	昭和56年（1981年） 3月30日	入生田	国道1号入生田のバス停のすぐ北側、箱根登山鉄道線路の南側沿いの民家や商店に囲まれた一角に、大きなクスノキなどとともに生育している。よく繁茂して樹勢は旺盛と見られるが、南西側（国道側）の株元の部分が損傷し、かなりの部分にわたって空洞化が進んでいる。

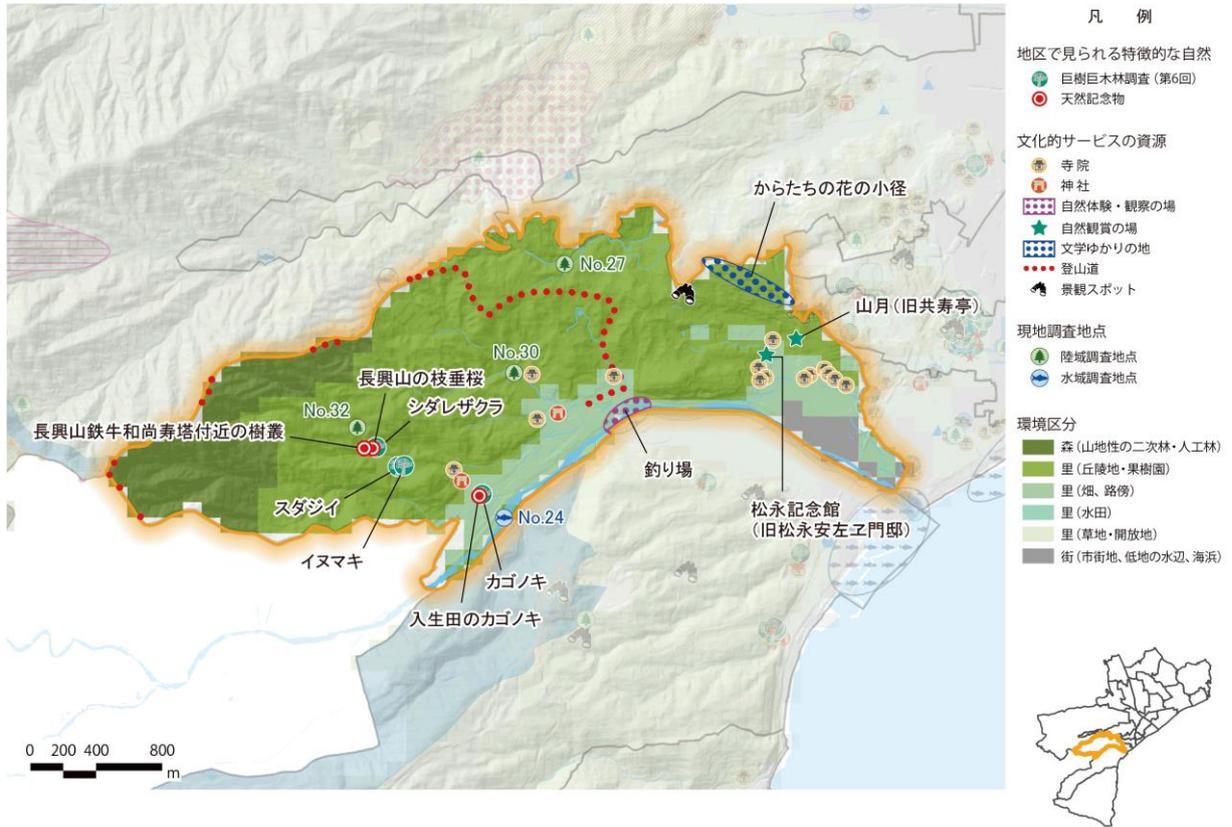
※出典：小田原市 HP「天然記念物」をもとに作成 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/property/cultural/natural/>

¹³ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

¹⁴ 出典：環境省(2016) Japan Biodiversity Outlook 2. <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/index.html>

¹⁵ 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

- **重要地点**：平成 29 年（2017 年）～30 年（2018 年）に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ多様性が高いと評価された現地調査地点「**陸域 No.32（長興山紹太寺とその周辺）**」、及び重要種が多く多様性が高いと評価された現地調査地点「**陸域 No. 27（水之尾毘沙門天とその周辺）**」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。



大窪地区の自然環境マップ